

# 第8回愛媛県なわとび選手権大会 競技規定

## ☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 出場種目は、個人部門1人3種目、団体部門1人3種目までとする。
- 3 団体部門で、違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合は、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場することとする。  
(例) 小学生低学年と小学生中学年が合同で出場する場合は、中学年の部に出場することになる。
- 4 健康状態については、保護者が責任をもつこと。傷害保険料を超える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 5 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局にメールで届け出る。(やむを得ない場合は当日も可)
- 6 規定にない事態が発生したときは、競技部(会長・審判長・事務局等)で協議し決定する。
- 7 参加者は県内在住者のみとする。

## ☆ カテゴリー

個人部門：未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生部門、  
一般部門(10~20代、30代、40代、50代)、シニア部門(60歳以上)  
※中高生・一般・シニア部門のカテゴリーは男女別とする。

団体部門：未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生部門、一般部門  
シニア部門(60歳以上)

## ☆ 競技種目

【個人部門】※1人3種目まで(親子とびを除く)

未就学児：前とび、あやとび、交差とび、二重とび、親子とび

小学生：30秒スピード、あやとび、交差とび、二重とび、あや二重とび、交差二重とび、  
三重とび、親子とび

中高生：30秒スピード、二重とび、あや二重とび、三重とび

一般・シニア：30秒スピード、二重とび、三重とび

【団体部門】※1人3種目まで

小学生：8の字ジャンプ1分・3分、みんなでジャンプ、ダブルダッチシングルス1分

中高生・一般・シニア：みんなでジャンプ、ダブルダッチシングルス1分

## ☆ 表彰規定

【個人部門】

- ・ 参加者全員に記録証を授与する。
- ・ 各種目、各カテゴリー上位3位までに賞状を授与する。

【団体部門】

- ・ 参加チームには、記録証を当日授与する。
- ・ 各種目、各カテゴリー上位3チームには、参加者数分の賞状を授与する。

## ☆ 競技規定

- ※ 本大会のルールは第8回愛媛県なわとび選手権大会ローカルルールである。正式な競技のルールとは違う部分もある。
- ※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

## 【個人部門】

### ☆ 30秒スピード

- 1 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。途中で引っかけても、時間内であれば続けて跳ぶことができる。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 4 前回しても後回しても、どちらでもよい。

### ☆ 前とび・あやとび・交差とび（一回旋技）、二重とび・あや二重とび・交差二重とび（二回旋技）三重とび（三回旋技）

- 1 記録は跳んだ回数（着地した回数）で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測し、あやとび・あや二重とびについては手がクロスした回数を数える。
- 2 「はじめ」の合図があり、一回旋技・二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。
- 3 記録は、やめたときに両足ともロープを越えていれば、その跳躍は記録に入れるが、そうでない場合は、最後の跳躍は記録に入らない。
- 4 試技は1回とし、10回以上跳べた場合は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しても後回しても、どちらでもよい。

### ☆ 親子とび

- 1 保護者が短縄を回し、2人同時に跳ぶ。
- 2 1分間に跳んだ合計跳躍回数を競う。途中で引っかけても、時間内であれば続けて跳ぶことができる。
- 3 1回旋1跳躍でも1回旋2跳躍でもよいがどちらも1回として計測する。
- 4 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

## 【団体部門】

### ☆ 8の字ジャンプ（1分間・3分間）

- 1 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図までの合計跳躍回数とする。何回ロープが引っかかっていても競技は続けられる。
- 2 開始のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 3 1人1回ずつ跳び、跳んで抜けた後、次の人が跳ぶ。2人が同時に跳ぶことはできない。
- 4 最後にロープが引っかかったときは、その人数は数えない。
- 5 時間内に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかっていても競技は続けられる。
- 6 選手は、3名以上とする。ロープの回し手（ターナー）2人を除く。上限はない。
- 7 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 8 同種目、同カテゴリーへの同一人物の重複エントリーは不可。重複エントリーが発覚した場合は、対象のチームは失格とする。
- 9 ロープの長さは、自由とする。

## ☆ みんなでジャンプ（1分）

- 1 競技時間は1分間とし、時間内であれば何度でも挑戦できる。
- 2 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図までの最大跳躍回数を基にしたポイント制とする。
- 3 「ジャンパーの人数」×「連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。  
(ポイント計算例)
  - ・ジャンパーが3人で200回跳んだ場合・・・3人×200回=600ポイント
  - ・ジャンパーが15人で60回跳んだ場合・・・15人×60回=900ポイント
  - ・ジャンパーが30人で20回跳んだ場合・・・30人×20回=600ポイント
- 4 「はじめ」の合図があり、跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や跳ぶのをやめたときが終了となる。
- 5 選手は3人以上とする。ロープの回し手（ターナー）2人を除く。上限はない。
- 6 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 7 同種目、同カテゴリーへの同一人物の重複エントリーは不可。重複エントリーが発覚した場合は、対象のチームは失格とする。
- 8 ロープの長さは、自由とする。

## ☆ ダブルダッチシングルス（1分）

- 1 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図があったときに跳んだ回数とする。
- 2 開始のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 3 最後にロープが引っかかったときは、その回数は数えない。
- 4 1分間の間に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかっても競技は続けられる。
- 5 選手はターナー2人、ジャンパー1人とする。
- 6 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 7 同種目、同カテゴリーへの同一人物の重複エントリーは不可。重複エントリーが発覚した場合は、対象のチームは失格とする。
- 8 ロープの長さは、自由とする。